

とぎめき

へ 夏は来ぬ

- 瑞浪北中と土岐小で体育大会（運動会）が開かれました
- 多くの住民参加で土岐川が美しくなりました
- 土岐小5年生が今年も田植えを体験しました
- 益見の水神様が引っ越しされました
- 第47回市主張大会が開かれました
- 9/27「草刈り女子育成教室」を開催します

【探訪と再発見】：真実の記憶？「大蛇退治の伝説」

【郷土再発見】：市原地区「報恩山禅鉢寺」

＜お詫びと訂正＞6月号（82号）見開き内の記事について
《差し込み頁》第4回草刈り女子育成教室開催案内



今年も、櫻堂薬師の鶴池のハスの花は見事に咲きほころびました。早朝には、多くの住民が観賞に訪れていました。

写真：櫻堂薬師鶴池にて令和8年7月撮影

瑞浪北中と土岐小で体育大会 (運動会) が開かれました

5月25日(月)、悪天候で延期されていた瑞浪北中学校の体育大会が開催されました。平日にもかかわらず多くの保護者や地域の皆さんが応援に訪れ、生徒たちは仲間の声援を力に、全力で競技に取り組みました。30日(土)には、夏を思わせるほどの晴天のもと、土岐小学校でも運動会が行われました。家族の温かい声援を受け、児童たちは笑顔で汗を輝かせながら懸命に走り、演技を披露しました。子どもの減少が心配される中でも、一生懸命に取り組む子どもの姿は地域に元気と希望を与えてくれるものでした。



瑞浪北中の体育大会の様子



土岐小の運動会の様子

多くの住民参加で土岐川が美しくなりました

6月7日(日)、土岐地区の住民約510人(市全体約3600人)が参加して「第50回土岐川河川清掃」が行われました。地域住民や中高校生、事業所のボランティアなど多数の住民が参加し、土岐川周辺の草刈りやゴミ拾いが行われました。草刈り女子11名も土岐小学校周辺の草刈りに参加し、大活躍でした。作業後の草刈り女子の交流会では、草刈り女子同士や地域とのつながりが広がることに対する喜びの報告がありました。



きなあつた瑞浪の対岸の新堤防は草の繁茂が激しく、他地区からの協力を得ながら遅くまで除草作業がなされました



草刈り女子の大活躍に、地域住民も驚いてみえました



高校生ボランティアの活躍も目立ちました。地域一丸となって環境を守る一大行事になっています

土岐小5年生が今年も田植えを体験しました

5月25日(月)、晴天に恵まれ、きなあつた瑞浪横のJAとうと体験農場で土岐小学校の5年生51名が田植え体験を行いました。とうぶ営農・JAとうと・県東濃農林事務所の皆さんの支援を受けて田んぼ一面に苗を植えました。手植え体験の後、一部の児童は、田植え機に乗せてもらいました。夏のような暑い日だったので、田んぼの水や土が気持ちよく、子どもたちは「気持ちいい、楽しい」と言いながら田植えを楽しんでいました。秋には、たわわに実った稲を刈る予定です。



手で苗を植えていく児童の様子



田植え機にも乗せてもらいました

益見の水神様が引っ越しされました

6月14日(日)、益見白山神社の小栗宮司さんにより益見地区の水神様のご遷座の神事が執り行われました。土岐川沿いの前の場所から、中切地蔵菩薩のお隣に移られました。神事の際には、益見地区の役員や地域住民が参加されました。水神様の石碑には「文久元酉冬」と刻まれており、文久元年(1861)の冬に建立されたものであることが分かります。今後はこの地で中切地蔵菩薩様と共に地域をお見守りいただけることと思います。



中切地蔵菩薩は旧三河街道にあり、子守り地蔵として近在の信奉が厚いです。水神様はこの中切地蔵菩薩のお隣に引っ越しされました

第47回市主張大会が開かれました

6月14日、総合文化センターで瑞浪市主張大会が開催され、土岐地区からは土岐小6年の小栗芽子(おぐり めいこ)さんと瑞浪北中3年の小木曾愛依(おぎそ めい)さんが出場しました。土岐小の小栗さんは、「瑞浪市の災害防災を考える」と題して発表。日頃の備えの大切さや意識を高める工夫について、自身の経験を交えて語りました。

北中の小木曾さん(土岐小出身)は「速さの中で、立ち止まる」として、タイパ(短い時間で高い成果や満足度が得られること)優先で急ぐことが当たり前前の社会に疑問を投げ掛け、時にはゆっくり立ち止まることで速さだけでは見えないものを得られることを強く語りました。小木曾さんは市最優秀賞を受賞し、東濃選考会でも代表に選ばれて県大会出場が決まりました。



土岐小6年小栗芽子さん

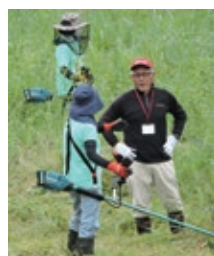


瑞浪北中3年小木曾愛依さん

9月27日(日)「草刈り女子育成教室」を開催します

5月23日(土)、草刈り女子育成教室の復習教室が、土岐小学校会議室と土岐川右岸河川敷で実施されました。過去の草刈り女子育成教室受講生の中で、さらに草刈り技術を高めたいと思う一期生、二期生、三期生の計8人の卒業生が参加しました。この復習教室の受講者は、「電動草刈り機の操作技術を磨くこと」以上に「同じ志を持った仲間と出会え、一緒に活動できる喜び」を感じられることや、今後の草刈りなどの奉仕活動へ参加する楽しさに意欲を高められている方も多かったようです。

今年も9月27日(日)に第4回目となる「草刈り女子育成教室」を開催の予定です(8月号本紙の差し込み詳細や申し込み手続きが載っています)。あなたも「草刈り女子育成教室」に参加して、新しい草刈り活動の仲間づくりや自分の手で電動草刈機を操作し地域を美しくすることの楽しさを味わってみませんか。



日焼田橋下右岸河川敷での復習教室の様子

真実の記憶？「大蛇退治の伝説」

古事記や日本書紀に登場する「ヤマタノオロチ伝説」は、荒れ狂う川を大蛇に見立てた治水の物語ともいわれます。出雲地方を流れる斐伊川（ヒイガワ）は、かつて洪水を繰り返す暴れ川で、人々はその猛威を八つの頭を持つ大蛇（オロチ）になぞらえました。素戔鳴尊（スサノオノミコト）がオロチを退治し、体内から「天叢雲剣（アメノムラクモノツルギ）」…のちの草薙剣（クサナギノツルギ）」を得たという神話は、荒ぶる川を鎮める治水事業を象徴しているといわれています。同じように、全国には川の洪水を竜や大蛇の姿で語り継ぐ民話が多く残ります。土岐地区の「櫻堂伝説」もその一つと思われ、村人を苦しめる大蛇を月吉・日吉の二人の若者が退治する物語として伝わっています。荒れ狂う川（土岐川）の姿を大蛇に重ね、人々が自然の脅威と戦ってきた歴史が民話として伝わったものかも知れません。

瑞浪市が公開する土岐川の洪水ハザードマップを見ると、赤色やオレンジ色の浸水が想定される地域は、驚くほど広範囲にわたることが分かります。もしかするとこの地域は、過去に土岐川による浸水被害があった地域なのかも知れません。

月吉・日吉が大蛇を鎮めた霊力は、現代の治水技術として受け継がれ、私たちは土岐川の近くに安心して住めるようになりました。しかし、ハザードマップが示すように、土岐川はいつ暴れ出すか分からない「眠れる大蛇」の可能性もあります。

櫻堂薬師に伝わる大蛇退治の民話は、土岐川の洪水災害史を後世に伝える“地域の記憶”なのかも知れません。



ヤマタノオロチ伝説



中央青色は現在の土岐川 赤・オレンジの色域は浸水が想定される地域
航空写真：県域統合型GISぎふより ハザードマップ：瑞浪市HPより

「郷土再発見」

市原地区

ほうおんざん ぜんたいじ
報恩山禅鉢寺



現在は稲津の興徳寺の末寺となっていますが、土岐頼貞公の位牌をお祀りするなど、光善寺と同様に土岐氏と関係の深いお寺で、万治元年（1658）の位牌を持つ古刹です。正徳3年（1713）興徳寺の三世一弦和尚によって中興され、安政2年（1855）十一世恭和尚によって本堂が再建されました。境内には、信州高遠の名工 守屋貞治作といわれる三十三所観音を始め、この地域には珍しい関東様式の庚申供養塔が祀られています。寺の歴史を象徴した樹齢約300年の大銀杏は2024年に伐採されました。

お詫びと訂正



令和8年6月号（82号）見開き内の記事について

「**公共施設の整備が進んでいます**」の瑞浪恵那道路の記事内の表記「リニア中央新幹線（**令和9年開業予定**）」は、（**開業時期未定**）の誤りでした。お詫びして訂正します。

発行元 土岐地区まちづくり推進協議会
編集 情報発信部会

連絡先 ☎ 0572-56-0136（直通） 加藤
発行日 令和8年8月

*本紙は瑞浪市夢づくり地域交付金を活用して発行しています。